

執筆者一覧

編著者

■ 下田正弘 → 奥付参照

■ 永崎研宣 → 奥付参照

執筆者（掲載順）

■ 小野 基（おのもとい）

■ 筑波大学教授

1. *KWIC Index to the Sanskrit texts of Dharmakīrti*. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1996. (共著)
2. *Prajñākaraguptas Erklärung der Definition gültiger Erkenntnis (Pramāṇavārttikālaṃkāra zu Pramāṇavārttika II 1-7) Teil I. Sanskrit-Text und Materialien*. Wien 2000.
3. 「第5章 真理論—プラマーナとは何か」、桂紹隆ほか編『シリーズ大乘仏教9 認識論・論理学』春秋社、2012年

■ 船山 徹（ふなやまとおる）

■ 京都大学教授

1. 『仏典はどう漢訳されたのか—スートラが経典となるとき』岩波書店、2013年
2. 『東アジア仏教の生活規則 梵網経—最古の形と発展の歴史』臨川書店、2017年
3. 『六朝隋唐仏教展開史』法藏館、2019年

■ 八尾 史（やおふみ）

■ 早稲田大学高等研究所講師

1. 『根本説一切有部律彙事』連合出版、2013年
2. “The Story of Dharmadinnā: Ordination by Messenger in the Mūlasarvāstivāda *Vinaya*,” *Indo-Iranian Journal* 58(3):216–253. 2015.
3. “Traces of Incorporation: Some Examples of the *Samyuktāgama Sūtras* in the Mūlasarvāstivāda *Vinaya*,” in Dharmadinnā, *Research on the Samyuktāgama*, Dharma Drum Publishing Corporation. (近刊)

■ 青野道彦（あおのみちひこ）

■ 東京大学助教

1. 「仏教文献における注釈構造の可視化に関する予備的研究—パーリ語仏教文献を事例として」『研究報告人文科学とコンピュータ』vol. 2017- CH-114, no. 2、1-5頁
2. 「Vinayapitakaにおける“ropeti”の意味」『韓国仏教学研究』vol. 87, 2018, pp. 211-243.

■ 李乃琦（りないき）

■ 国際仏教学大学院大学、JSPS 外国人研究員

1. 「図書寮本『類聚名義抄』における玄応撰『一切経音義』の依拠テキスト—『一切経音義』巻第四を中心に—」『訓点語と訓点資料』137、115-132 頁、2016 年
2. 「玄応撰『一切経音義』諸本系統から見た P.2901」『汲古』72、汲古書院、13-19 頁、2017 年

■ 宮崎展昌（みやざきてんしょう）

■ 鶴見大学仏教文化研究所准教授

1. 『阿闍世王経の研究—その編纂過程の解明を中心として』山喜房佛書林、2012 年
2. 『大蔵経の歴史—成り立ちと伝承』方丈堂出版、2019 年 12 月刊行予定
3. 「竺法護訳『普超三昧経』の日本古写経三種と版本大蔵経諸本の関係について」『日本古写経研究所研究紀要』4、37-67 頁、2019 年

■ 石井清純（いしいきよずみ）

■ 駒澤大学教授

1. 『構築された仏教思想 道元—一仏であるがゆえに坐す—』佼成出版社、2016 年
2. “New Trend in Dōgen Studies in Japan.” *Dōgen: Textual and Historical Studies*, Oxford University Press, 2012, pp223-235
3. 『禅問答入門（角川選書）』角川学芸出版、2010 年

■ 蓑輪顕量（みのわけんりょう）

■ 東京大学大学院教授

1. 『仏教瞑想論』春秋社、2008 年
2. 『日本仏教の教理形成—法会における唱導と論義の研究—』大蔵出版、2009 年
3. 『日本仏教史』春秋社、2015 年

■ 王一凡（おういふあん）

■ 東京大学大学院教育学研究科／人文情報学研究所

1. “Development of Glyph Image Corpus for Studies of Writing System.” In *Proceedings of the 6th Conference of Japanese Association for Digital Humanities*, 2016, pp. 49–50.
2. 王一凡・永崎研宣・下田正弘「グラフデータベースによる文書リポジトリ統合管理システムの設計」『情報処理学会研究報告』vol. 2018-CH-117, no. 8、1-6 頁
3. “What Are We Calling ‘Latin Script’?: Name and Reality in the Grammatological Terminology.” In *Graphemics in the 21st Century*. (近刊)

■ 宮崎 泉（みやざきいずみ）

■ 京都大学大学院教授

1. 『中観優波提舍開宝篋』テキスト・訳注『京都大学文学部研究紀要』46、1-126 頁、

2007年

2. 「大乘仏教における空性と慈悲—その関係、機能と実践の一断面—」『哲学研究』587、1-22頁、2009年
3. 「Aṭiṣaの如来蔵思想—その典拠と大中—」『印度学佛教学研究』65-2、174-181頁、2017年

■ 苫米地等流（とまべちとうる）

■ 一般財団法人人文情報学研究所主席研究員

1. *Adhyardhaśatikā Prajñāpāramitā : Sanskrit and Tibetan texts*, Sanskrit Texts from the Tibetan Autonomous Region, no. 5, China Tibetology Publishing House, Austrian Academy of Sciences Press, 2009.
2. *Candrakīrti's Vajrasattvaṇiṣpādanasūtra (Vajrasattvasādhana) : Sanskrit and Tibetan texts*, Sanskrit Texts from the Tibetan Autonomous Region, no. 6, China Tibetology Publishing House, Austrian Academy of Sciences Press, 2009. (共編)
3. *Dharmakīrti's Pramāṇaviniścaya, Chapter 3*, Sanskrit Texts from the Tibetan Autonomous Region, no. 8, China Tibetology Publishing House, Austrian Academy of Sciences Press, 2011. (共編)

■ 落合俊典（おちあいとしのり）

■ 国際仏教学大学院大学教授

1. 『禅林寺蔵新羅元暁撰両卷無量寿経宗要』民族社（韓国）、1989年（影印解題）
2. 『七寺古逸經典研究叢書』全六巻、大東出版社、1994年～2000年（編著）
3. 「平成15～18年度科学研究費補助金基盤研究報告書」『金剛寺一切経の総合的研究と金剛寺聖教の基礎的研究』Vol. I, Vol. II, 2007年（編著）

■ 高橋晃一（たかはしこういち）

■ 東京大学大学院准教授

1. 「TEI P5を利用した仏教用語集作成に関する諸問題」『人工工学の可能性～異分野融合による「実質化」の方法～』（人文科学とコンピュータシンポジウム論文集）125-130頁、2010年
2. 「論理構造と物理構造が混在するテキストのXMLによるマークアップに関する考察」『情報処理学会研究報告』Vol.2013-CH-98, No.6、1-5頁、2013年

■ 大向一輝（おおむかいいき）

■ 東京大学大学院准教授

1. 『ウェブがわかる本』岩波書店、2007年
2. 『ウェブらしさを考える本』丸善出版、2012年（共著）
3. 「オープンサイエンスと研究データ共有」『心理学評論』61-1、13-21頁、2018年

[編著者]

下田正弘 (しもだまさひろ)

1957年生まれ。東京大学教授(人文情報学拠点長)。東京大学文学部印度哲学印度文学専修課程卒業。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。博士(文学)。この間に、ロンドン大学(SOAS)、スタンフォード大学、ウィーン大学で客員教授を務める。著書に、『蔵文和訳『大乘涅槃経』(1)』(山喜房仏書林、1993年)、『涅槃経の研究 大乘経典の研究手法試論』(春秋社、1997年。新装版、2019年)、編著に『宗教学文献事典』(弘文堂、2007年)、『新アジア仏教史』全15巻(校成出版、2010～2011年)、『シリーズ大乘仏教』全10巻(春秋社、2011～2014年)など。仏教聖典形成史、仏教思想研究を専門としつつ、大蔵経のテキストデータベース化事業を担い、日本における人文情報学の普及に取り組んできた。日本デジタルヒューマニティーズ学会議長、会長を務め、現在、日本印度学仏教学会理事長。

永崎研宣 (ながさききよのり)

1971年生まれ。一般財団法人人文情報学研究所首席研究員。筑波大学大学院博士課程哲学・思想研究科単位取得退学。博士(関西大学・文化交渉学)。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所COE研究員、山口県立大学国際文化学部助教授等を経て一般財団法人人文情報学研究所の設立に参画。これまで各地の大学研究機関で文化資料のデジタル化と応用についての研究開発と教育に携わってきた。学会関連活動としては、情報処理学会論文誌編集委員、日本印度学仏教学会常務委員情報担当、日本デジタル・ヒューマニティーズ学会議長、TEI Consortium理事等がある。著書に『文科系のための情報発信リテラシー』(東京電機大学出版局、2004年)、『日本の文化をデジタル世界に伝える』(樹村房、2019年)など。

デジタル学術空間の作り方

仏教学から提起する次世代人文学のモデル

2019(令和1)年11月29日 第1版第1刷発行

ISBN978-4-909658-19-7 C0020 著作権は各執筆者にあります

発行所 株式会社 文学通信

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-35-6-201

電話 03-5939-9027 Fax 03-5939-9094

メール info@bungaku-report.com ウェブ http://bungaku-report.com

発行人 岡田圭介

印刷・製本 モリモト印刷

※乱丁・落丁本はお取り替えいたしますので、ご一報ください。書影は自由にお使いください。



ご意見・ご感想はこちらからも送れます。上記のQRコードを読み取ってください。